

2024.05.26. 神は知られている

ヨブ記 12 章 7 節から 10 節

Mac 牧師

一緒に祈りましょう。主よ、あなたが生きておられる通り、あなたは生きて、私たちの中におられます。あなたの御言葉と共に。今朝、私たちはここに集まり、あなたが恵み深く祝福くださったこの場所で、一つの体として交わり会えるのです。主よ、御言葉を通して私たちに語りかけてくださいますか？主よ、あなたの御言葉を伝える時、マック牧師と共にいてください。彼を引き上げてください。彼の口から出る言葉とすべてが、あなたのものでありますように。私たちの時間を祝福してください。私たちはこれらすべてを、唯一の御名、イエスの御名前によってお願いします。アーメン、アーメン。

主を褒め称えます。神の祝福がありますように。どうぞご着席ください。ありがとうございます。

では、皆さん、おはようございます！！ここで皆さんとお会いできることはただ祝福です。本当に本当に。J.D.ファラグ牧師に代わって、ここカルバリー・カネオへようこそ。オンラインでご参加の皆さんも、日曜日の朝のオンライン礼拝、ライブ配信へようこそ。神の御言葉を聞くために心を整えましょう。その前に、メモリアル・デーについて少し触れておきたいと思います。従軍されたすべての方々に感謝するとともに、この国の公益を守るために、愛する人を亡くした方々に深い哀悼の意を表します。彼らは忘れられていません。あなたも。この国でこのように生活できるのは、すべてあなた方の犠牲の上にあることを私たちは感謝します。ですから、再度、ありがとうございます。あなたに神の祝福がありますように。次回の祈り会は6月4日午後7時から、この礼拝堂であることを皆さんにお知らせします。可能であれば、是非来て、私たちと一緒に祈ってください。私たちは皆、できる限りの祈りを必要としています。私たちが受け取り、届けられる祈りを。でしょ？この時代は暗く、神の御言葉通り、暗くなる一方です。だからこそ、私たちはより輝くことができます。ですから、もし来られるなら、一緒に祈ってください。ご無理なら、とにかく祈ってください。私たちは絶え間なく祈らねばなりません。

では！日曜日には2つの礼拝があり、通常、第一礼拝は、「聖書預言・アップデート」、第二礼拝は「説教」に専念します。しかし、今日の第一礼拝では、皆さんと一緒に「ヨブ記」を読みたいと思います。「ヨブ記」です。この書をご存知ない方、「詩篇」の前にあります。「ヨブ記 12 章」、7 節から始めます。可能な方はご起立ください。今朝の聖句の朗読の後、祈りの言葉を捧げます。この書を開きます。「ヨブ記」12 章、7 節から、神の御言葉が仰られます。

ーヨブ 12 : 7ー

しかし獣に尋ねてみよ。あなたに教えてくれるだろう。空の鳥にも。あなたに告げてくれるだろう。

ーヨブ 12 : 8ー

あるいは地に話しかけよ。教えてくれるだろう。海の魚も語るだろう。

ーヨブ 12 : 9ー

これらすべてのうちで、主の御手がこれをなしたことを知らない者があるだろうか。

ーヨブ 12 : 10ー

すべての生き物のいのちと、すべての肉なる人の息は、その御手のうちにある。

今朝、この御言葉への祝福を神に祈り求めましょう。天のお父様、まず主よ、私たちがここにいることを御許しください、感謝します。あなたがいつもご忠実であられるように、あなたの御力のパワーと強さによって、どうぞここで私たちを迎えてください。今朝あなたが、私たちに聞かせようと決めてくださった御言葉を、私たちに明らかにしてください。そうすることで、固い心を打ち砕き、御言葉がどんなに困難なものであっても、それを受け止めることができますように。なぜなら、あなたの御言葉は、真理の御言葉だからです。ですから主よ、あなただけがお出来になる通り、私たちに語ってください。救世主イエス、イエシュア

の力ある御名において祈ります。アーメン。では、ありがとうございます。ご着席ください。

では、今朝の御言葉のタイトルは『神は知られている』私は「ヨブ記」の中のこの聖句を使いたかったのです。それらは、神聖な言わば皮肉を含んでいるからです。たまには、神の御言葉による神のご理性によって、神に逆らう賢者が、全くの愚か者であるのを露呈させなければなりません。常に愚かさを尊重しながら生きていくには、時間があまりにも短すぎるからです。ある人は傲慢に見えるかもしれませんが、私は、無知に取り組むべき多くの人たちが野放しにしてきた無知を前にして、必要な大胆さだと思います。結論は、『神は知られている』そうであるにもかかわらず、神がいないと言うのは、完全な無知です。聖書が真実でなければ、聖書に対する懸念はまったくくないでしょ。聞いてます？ 神の御言葉、聖なる御言葉。そして、人の暗い魂を切り裂く。私たちは皆、咎の中に生まれたからです。特に欧米が「神などいない」と望むのには理由があります。その理由は、彼らの心の中で、責任を問われる必要がない生活を続けるためです。聞いていますか？ これは、私たちの多くが主の下に引き寄せられる前に考えていたことです。しかし、全人類がどんなに神は実在しないと願おうが、希望しようが、考えようが、神はご存在を明らかにしておられます。そして彼らは皆それを知っています。神がそうおっしゃったからです。神は、紛れもないこの事実を、被造物全体だけでなく、人の心にも置かれました。しかし、神を信じないこの強い心は、問題の一部に過ぎません。なぜなら、聖書の神ではない神を信じる人々がいるからです。だから一方で、クリスチャンにとってしばしばこんな疑問が生じます。「神はどうやって証明されるのか？」と。そして別の角度から、次のような質問もあります。「聖書の神が唯一の真実の神だとどうやって証明できるのか？」と。そこで私たちに問われているのは、私たちは何をすべきか？あるいはどう答えるか？ この問いは、私たち一人ひとりが自分自身に問いかけ、どのようにすれば理解できるかです。ですから、主のお許しをいただき、題材説教の類は行いません。しません。今日は、今日、私は、信者でない人たちにできるだけ率直に語り、もちろん教会にも、シンプルに神の御言葉を宣べ伝えたいと思います。科学的な講義をするつもりはありませんよ。私は得意ですからね。でも、私たちはそうしません。哲学的な議論もしません。それもいいんでしょうけど、しません。何度も行き来する必要はありません。説明欄に、現代最高の弁証者たちや、その他のリンクを張る必要はありません。まず第一に、聖書は科学の本ではありません。また、人間の愚かな心と比べるべき書物でもありません。人の魂のための神聖な書物です。もしあなたの心と魂が、真実を聞きたくないという意図的な意志のせいですでに焼かれているなら、そうなら、他の材料や言葉を追加したところで、何ら変わることはありません。あなたがただ議論がしたいだけなら、今言ったようなカテゴリーに、あなたがすでに属していることの証明にしかありません。神ははっきりと知られています。あなたが決める必要があるのは、なぜあなたが神を知る必要があるのか、です。それを踏まえて、質問に戻ります。神を証明せよ、あるいは聖書の神が唯一の真の神であることを証明せよと問われたとき、私たちはクリスチャンとしてどうすればいいのか？ この質問への答えは、私たちはただ神の御言葉を信じ、それを示すだけ。その後起こるかもしれないことの準備のために。聞いてます？ OK。そして、これから見るこの1節で、この2つの質問に答えることとなります。でも、多くの人が考えるような方法ではありません。それがポイントです。教会よ、準備はいいですか？ あなたに準備ができていないことに神を讃えます。「ヨハネの福音書」6章44節に収められています。御言葉を読みます。これはイエスが語っておられます。

ーヨハネ 6：44ー

わたしを遣わされた父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとに来ることはできません。わたしはその人を終わりの日によみがえらせます。

お時間差し上げるのでよく考えてください。そうです。神、聖書の神が唯一の神であることの証明のために、これが私の言いたいことです。お付き合いください。この2つの質問に答えるため、私はイエスの言葉を話します。説明します。教会の皆さん、理解してください。ここが福音に至る前の準備段階なのです。皆さん、ついてきていますか？（会衆：はい！）でもこれが、これらの質問が出た時に、私の一番言いたい答えです。なぜなら、それが要約されているからです。私たちが理解する様祈ります。私たちは皆、このような事態に備える必要があるからです。あなたがたのうちにある希望の理由を尋ねるすべての人に、弁明や答えをする用意をおきなさい、と書かれているからです。（**1ペテロ 3：15**）

そして私にとって、これらの質問はそのカテゴリーに入ります。この返答が私の決然とした希望だからで、つまり、神に関わることとして、私はこれを確信しているからです。なぜなら、主が私を引き寄せて下さ

り、私を引き上げて下さることを知っているからです。話がそれるつもりはありませんが、この描かれた言葉は、釣りをするときのルアー（疑似餌）に似ています。ついてきていますか？ そして、ひとたび神の愛にかかったら、あなたは完全にその網に引き込まれます。そして神は、私たちを引き上げてくださる。ですから、考えてみてください。彼らが、御父によって引き寄せられ、あるいは引き寄せられつつあるなら、その引き寄せは、人が真摯な好奇心を持つことによって、これが何を意味するのかを表し始めます。ここまで大丈夫ですか？ 聞いてますか？ しかし、プレッシャーは私たちにはありません。私たちは、誰がどう反応しようとも責任を感じるべきではありません。私たちは、聖霊の促しに従順であることにのみ責任を負うべきです。で、もし彼らの返答が、「このすべてがナンセンス」なら、それなら、今のところ、彼らは御父に引き寄せられていないこととなります。話の向かう先が分かりますか？ だから、この時点で関与が終わるのであれば、それでいいです。でもどうです？ あなたがしていないことは何か。豚に真珠です。神が引き寄せられます。私たちがするものではありません。しかし、繰り返しますが、疑問が投げかけられるということは、恐らく神が引き寄せておられるのです。たとえ彼らが抵抗して、そして少し巧妙になろうとこう質問しても、「なぜ私は御父に引き寄せられないのか？」ふ～ん。よくぞ聞いてくれました。ここに私の答えがあります。非常にシンプルです。神から教えられていないから、あなたは御父に引き寄せられていないのです。聞いてください。あなたがそれを聞こうとしないか、聞いたことがないかのどちらかです。まだ一度も聞いたことがないのなら、今こそ聞くべきです。神に耳を傾け、学ぶ者は皆、イエスのもとにやってきました。いずれにせよ、神は知られていて、神は、神から教わる機会を得たすべての人をご存じです。イエスがここで語っておられるのは、まさにこのことです。教会よ、お付き合いください。このことをさらに指摘するため、「ヨハネの福音書 6 章」44 節と 45 節と一緒に見てみましょう。神の御言葉を読みます。イエスが話しておられます。

—ヨハネ 6 : 44—

わたし（イエス）を遣わされた父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとに来ることはできません。わたしはその人を終わりの日によみがえらせます。

45 節、注意して聞いてください。

—ヨハネ 6 : 45—

預言者たちの書に、『彼らはみな、_____よって教えられる』と書かれています。・・・

もう一度やってみましょう。彼らは皆、誰に教えられるのか？（会衆：神です！！）

・・・父から聞いて学んだ者はみな、わたしのもとに来ます。

誰のもとに？「イエス」のもとに！！私たち大丈夫ですか？これが鍵です。彼らは聞き、学んだ。私たちは皆、このことを認識する必要があります。なぜなら私は、私が最初に主に引き寄せられたときは、ただ一度聞いただけではありませんでした。私はそうではなかった。私は聞いた時に、いくつかのことを学ばなければならなかった。それから、キリストの下へ来ました。今思うと、私は学ぶのに時間がかかるからかもしれません。しかし、重要なのは、私たちはこのことを考えなくてはならないということです。まだ信じていない人たちも含めてね。でしょ？まだ、と私が言うのは、父なる神から聞き、学んだなら、子なる神（イエス）の下に来ることになるからです。これが、聖典に書かれていることです。ついてきていますか？しかし、神について聞いたり学んだりすることは、誰もが選択できる意志からの行為です。「あ～、そういうことか。また選択の話に戻るのね。」そうです。それはあなた次第です。そして、そこに自己告発があります。神を証明するための私のひと言戦術を使いながら、一度ある男と話をしたことがあります。そのひと言とは「愛」です。そこから逃れることはできません。ですから、とにかく、会話の途中で彼は、私を止めてこう言いました。「あのさ。神が存在するかどうか知りたくないんだ。」そうだったんです。そんな感じ。つまり、私の脳の一部は彼の言っていることを理解し得ました。「ああ、君は責任を取りたくないんだね。」でも私はこんな感じです。「なぜ？それ以上何も聞きたくない。神が存在するかどうか知りたくない、って君はすでに分かっているんじゃないか。」でしょ？あなたが神について尋ねているという事実が、それを物語っています。でも、繰り返しますが、これには理由があります。人々が神について尋ねるのは自然なことだからです。神は実在されるから。そして、神は知られています。だから彼らは尋ねるのです。私たち自身の

DNA がそれを証明しています。科学の話はなし、といましたが、でも、それ一つだけです。ー（笑）ー
でも皆さん分かるでしょ？

では、理解すべきは、人々がそれを信じようと信じまいと、神は聖霊のゆえに知られています。聞いてますか？ 今、聖霊はすべての信者の中に住んでおられ、しかし、同時に聖霊は、まぎれもないご方法で、全世界に向けても語りかけておられます。また、「ヨハネの福音書 16 章」、7 節から 11 節に、このように記されています。神の御言葉を読みます。再度、イエスが話しておられます。

ーヨハネ 16：7ー

しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主（聖霊）はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。

次の 8 節に、注意してください。

ーヨハネ 16：8ー

その方（聖霊）が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます。

ーヨハネ 16：9ー

罪についてというのは、彼らがわたし（イエス）を信じないからです。

ーヨハネ 16：10ー

義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。

そして 11 節、

ーヨハネ 16：11ー

さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

教会よ、聞いていますか？ 聖霊が、世に罪を示される。ところで、この世の支配者はサタンです。すでに火の池での、永遠の天罰が下されている者です。しかし、この聖霊のお働き、世に、罪と義と裁きについてを明らかにされるのが分かりますか？ 義は主イエスのものです。誰も逃げられません。聖霊のお働きには、彼らにとって有益だったし、今も私たちにとって有益です。なぜなら、私たちが世に罪を示す必要がないからです。助け主聖霊だけがそれをなさいます。どんな理由であれ、私たちは自分自身に課すプレッシャーが、私たちから取り除かれているのが分かりますか？ 私たちにはありません。悪魔が現在この世の支配者であることを忘れてはなりません。このことが人々を混乱させ、人々は神に腹を立てます。悪魔のほうに腹を立てるべきだと思います。で、こんな風に尋ねる人、「神が全能なら、なぜ神はすべてを正してくださらないのか？神が神なら、なぜこのような事態を招いたのか？」あなたは間違った質問をしています。質問はこうなるべきです。「なぜ全能の神は、罪深く反逆的な民を救おうとお考えにすらなるのか？」それが質問です！！ つまり、私たちの多くは、ペットが何か悪いことをしても対処できない。まじめな話です。「君はまた床におしっこをした。それまでだ！」そうでしょ。あなたがたの何人かの人。私の言動ではありませんけど、それってあの人たちですって！！ 私の話す意味は分かりますよね？ 間違った質問です。人々は神の存在を知っています。神は現実です。私たちは知っていました。知っていました。私たちはそれを否定しようとした。でも、知っていました。しかし、私たちは、神はいないと主張するあなた方を神がどう考えておられるかも知るべきです。神などいないと主張した私たちと同じように、神はあなたのことを考えておられます。神は御思いを変えられません。「詩篇 14 篇」1 節から 3 節にそれがありません。御言葉を読みます。（指揮者のために。ダビデによる。）

ー詩篇 14：1ー

愚か者は心の中で「神はいない」と言う。・・・

(私でなく、神です。でも”愚か者”と言うのが好き～) 私は愚か者でした。愚か者は心の中で「神はいない」と言う。

・・・彼らは腐っていて 忌まわしいことを行う。 善を行う者はいない。

一詩篇 14：2ー

主は天から人の子らを見下ろされた。 悟る者 神を求める者がいるかどうかと。

一詩篇 14：3ー

すべての者が離れて行き だれもかれも無用の者となった。 善を行う者はいない。 だれ一人いない。

愚か者は心の中で「神はいない」と言う。 実際、1節が語るのは、愚か者は邪悪でありたいから、神の存在を否定する。それがここで語られていることです。で、留意ください。この神を否定することは、「神はいない」と主張する人々にとって継続的なプロセスでなければならない。皆さん分かるでしょ？ それに分かりますか？ 彼らの中に、神は存在しない、神について二度と何も語ることはない、と言い切れる者がいますか？ 分かりますか？ そうはなりませんよ。なぜなら、もし神がいなかったら、神を語る必要がないからです。なぜ議論になりますか？ ひとつ同意できるのは時間。思いませんか？ 時間は過ぎていき、それなら、信じていないことに時間を費やす必要はないでしょう？ 皆さん、分かりますか？ そう、でも、これだけは言っておきます。「レプラコーン（伝説の妖精）はいないんだ！！」と言って走り回る人はいません。でしょ？ もしあなたがそうするなら、どうぞ。でも、分かるでしょ？ しかし、なぜ彼らは、レプラコーンはいないと叫びながら走り回らないのか？ なぜなら、レプラコーンがいなかったことを知っているから。それが理由です。特に、ここハワイでのこと、考えてみてください。虹がたくさん出ます。へ！ どこもかしこも、金が入った壺だらけ。(レプラコーンは虹のふもとに金の壺を隠す)ただ虹と一緒にぶらついている。たぶんね。まったく新しい感覚になるんじゃないですか？ しかし、それらはすべて寓話で、心に何の影響も与えません。でも、神の御言葉は攻撃的です。福音は攻撃的です。それが、人の心を悩ませるからです。腐敗と忌まわしい行いを示すからです。ですから、神の御言葉を紹介するとき、私たちが攻撃的になる必要は全くありません。御言葉がそうなさいますから。あなたが気を悪くさせなくても。自分自身を修復するために自分でできることは何もありません。私たちには出来ません。しかし、神は、私たちにご自分の御言葉と、もっと重要な御子（イエス）を与えてくださいました。聖書はそれだけでも、比べられるものは何もありません。それに匹敵するものもありません。私は、とても興味深いことだと思えます。神の御言葉を断固として否定する人々の大多数は、自分で読んだことはない。まだ軍隊にいた頃、よく旅をしていて、私の好きなことのひとつは、本を開くことでした。一番混んでいる場所に座るので、誰かが「ねえ、何読んでるの？」おお！！やった～！！ さあ、会話に入ろう。さっそく始めよう。何度もあったのが、真の神、生ける神について語ることになりました。人々は言います。「私はこれを知ってるし～。」で、私は聞きます。「ねえ、自分で聖書を読んだことがある？」「ないよ。」10人中8人は、自分で手に取ったこともない。しかし、彼らは神のことを知っています。驚きですよ？ しかし、それは神の御言葉を証明することになる。あなたは聞いて学んでいないから。それゆえ、あなたは主に引き寄せられないことを選んでいる。その意味が分かりますか？ あなたは分かっている。「聖書を読んだことがありますか？」彼らがこんな風に言うのじゃありません。「そんな本、聞いたことない。それは何ですか？」いえいえ、そうじゃない。すべての偽りの神々に関して言うと、それらはすべて人間が自分で何かをしなければならぬことを要求します。あらゆる偽りの宗教が。あらゆる、そのどれもが人間に何かを要求します。しかし、聖書の神は、すでに人間のためにすべてを成し遂げておられます。それが私たちの神です。人間がすべきことは、信じて受け取ることだけ。そのような専門家、神は存在しないという哲学者たちは、彼らは、「なぜ？」の質問を延々とするのが好きで、私の神への論争への取り組みでキャリアを築くことさえあります。言わせてほしいのが、あなたたちの仕事はすべて、故意に無知であることによる邪悪な仕事です。またこれも分かってください。あなたたちはそれぞれ、悪魔と一緒に引退プランを確立している。でもどうかこれも分かってください。悪魔に雇われている者は皆、文字通り地獄を見ることになります。あなたがイエスのもとに来ない限り。その仕事から手を引いてください。神は現実だからです。神は知られています。愚か者が心の中で「神はいない」と言うことに伴って、愚か者の繁栄は、彼らが神を必要としないもう一つの理由です。たとえ、彼らが神がおられるのを知っていて、神がはっきりご自分の存在を知らしめられても。これについて出し惜しみはやめましょ

う。繁栄は私たち全員を愚かにしてしまうから。よくあることです。だから、私たちはこのことに留意しなければなりません。理由があって、聖典の至るところにあるからです。そうすれば、私たちがそれに心を留められるから。この点を指摘するため、「ヨブ記」に戻って、今度は21章を見て欲しいのです。「ヨブ記21章」7節から15節まで読んでみましょう。信じられないかもしれませんが、そんなに長くはありません。この9節で、いわゆる繁栄に関わって、悪魔の世界に生きる人の邪悪な心がどうなるかを見て行きます。私たちは、思考の中でそこにいますか？御霊において会いましょう。御言葉を読みます。

ーヨブ 21：7ー

なぜ悪しき者が生きながらえて年をとっても、なお力を増し加えるのか。

ーヨブ 21：8ー

その子孫は彼らとともにあって、彼らの前に堅く立ち、その末裔は彼らの目の前に堅く立つ。

ーヨブ 21：9ー

彼らの家は平和で恐れもなく、神のむちが彼らの上に下されることもない。

ーヨブ 21：10ー

その雄牛は、はらませて失敗することがなく、その雌牛は、子を産んで仕損じることがない。

ーヨブ 21：11ー

彼らは幼子たちを羊の群れのように自由にさせ、彼らの子どもたちは飛び跳ねる。

ーヨブ 21：12ー

彼らはタンバリンや堅琴に合わせて歌い、笛の音で楽しむ。

ーヨブ 21：13ー

幸せのうちに寿命を全うし、安らかによみに下る。

ーヨブ 21：14ー

彼らは神に向かって言う。「私たちから離れよ。

私たちは、あなたの道を知りたくない。

ーヨブ 21：15ー

全能者とは何なのか。私たちが仕えなければならないとは。どんな益があるのか。私たちが彼に祈り願ったところで」と。

これが分かりますか？ このことは、詩篇や聖典の他の箇所にも見られます。しかし、「ヨブ記」は、特に、聖書の中で最も古い書物のひとつで、最初から人の心を描いています。そして留意すべきは、ヨブは言いませんでした。「さあ早く悪者を滅ぼしてくれませんか？」とは。ヨブは、言いませんでした。彼は、私たちが皆、ある時点では邪悪で、今でも邪悪になる傾向があるのを知っているから。彼は、そして私たちも、邪悪な者がよく長生きし、素晴らしい人生を送っているように見えることに気づかざるを得なかった。そ、私は自分自身に語ります。これは時に、ちょっと見るに耐えません。でしょ？ つまり、邪悪な人たちは、隠れてうまくやっているように見える。そして一方、この地球に戻ると、主に仕えようと最善を尽くす私たちの多くは、毎日目覚めると新たな問題を目の当たりにする。なぜこの問題が起きたのか。こんなことになるとは思わなかった。私たちのレーダーにも入っていなかった。実際、ノーマンの問題です。分かるでしょ？ 時に、糸一本でしがみついているような状態で、自問自答することさえある。少なくとも、私はそうです。「これに何の価値があるの？」あるいは、苛立ちのあまり、不敬虔な考えを抱くようになる。そう、あなた。

— (笑) — 当たってるでしょ。私から話をそらさねばならなかったからね。そして、このような不敬虔な思いを抱くと、「私は主に仕える資格があるのだろうか？」邪悪な者たち。彼らは何事からも逃げ切り、いい暮らしをしているように見える。これでは、クリスチャンになりたいと思う人はいないでしょう。彼らは私たちを見て、こう言います。「うわ。マジで、マジなの？」いいえ。私たちは休息を取ることができないように見える。で、その代わりに目を覚ますと、毎日が砕かれている。しかし、私たちはこれを覚えておく必要があります。神はそれが簡単だとは仰らなかった。実際、神は逆を仰いました。しかし、真の生ける神に仕えることを選ぶ者にとって、最後はそれ以上の価値があります。では、邪悪な生き方を選び、悪魔によって栄えている者たちは、このすべてが重い代償を伴うことを知っておいてほしい。繰り返しますが、イエスの下に来ないのなら。しかし、ヨブが神の御霊によって書いているように、彼らの多くは、神に離れると言います。それが分かりますか？ 彼らは神の道を知ろうとはしない。神は知られています。しかし、私はあなた（神）に離れて欲しい。私はあなたのやり方を知りたくないから。それが分かりますか？ 彼らは神の言葉を聞こうとも学ぼうともしない。そのため、彼らは、決して神に引き寄せられることはない。なぜか？ 彼らの目には預言者が見えないから。しかし、神は、それにもかかわらず、神の愛とご忍耐のご性質のゆえに、しばしば、彼らが自分に引き寄せられることを決意する機会を与えるため、彼らに長い人生を歩ませられます。それが分かりますか？ それが私たちの神のご性質です。なぜなら、人を悔い改めに導くのは神の優しさだからです。ただ、多くの人が神からもたらされるその優しさを拒絶しているだけです。

それでは！ さて、おもな焦点を教会に移しましょう。やあ、教会よ。あらゆる試練が訪れたとき、この人生で経験する全ての困難に直面したとき、信じようと思ひまいと、私たちにはやるべき仕事があります。そして、それは高貴な召しです。神からの召しです。それは聖書の一節を読んだり、トラクトを配ったり、ミニストリーに参加したり、あるいは神の御言葉を教えたり説教したりするだけではありません。なぜなら、神は知られていて、私たちを見て、私たちと接する人たちは、疑うことなく、私たちが神に知られていることが分かるはずで。聞いていますか？ 繰り返しますが、私たちがこれから経験すること、そして今経験していることすべてにもかかわらず、これは絶対に必要なことです。私たちが神によって知られていることを、全世界がはっきりと知るべきです。これこそ、神が全世界を告発するために用いられる具体的な証拠です。そしてそれは、世が自力で生み出すことのできないものから始まります。この真理は、「第一コリントの人への手紙」8章3節に記されています。御言葉を読みます。

—Iコリント 8：3—

しかし、だれかが神を愛するなら、その人は神に知られています。

神を愛する者がいれば、その人は神によって知られています。私たちが神によって知られているなら、私たちは神の愛を他の人々に示すことができるはずで。そしてその愛は、信者にも未信者にも向けられます。そして、私たちが互いに愛し合うことによって、世は神を見るようになるかと教えられています。なぜそうなのか？ なぜなら、この世は、神の愛を生み出すことができないから。皆さん、分かりますか？ 額から角が生えているような目で私を見ている人もいますよ。神の愛は神聖です。それは神の御霊によるものです。それはイエス・キリストの血潮によってすべての信者に与えられています。これは、神によって知られるという私たちの召しの最初の部分です。私たちの神への愛ゆえに。そう、私たちは神に知ってもらっていて、私たちはそれを実践するよう召されています。私たちの人生とすべての行動を通して、神のご栄光のためにこの愛を実践する。これが私たちの生き方のはずで。使徒パウロが聖霊によって語っていたことが、「第二コリント人への手紙3章」2節から3節に収められています。御言葉を読みます。

—IIコリント 3：2—

私たちの推薦状はあなたがたです。それは私たちの心に書き記されていて、すべての人に知られ、また読まれています。

—IIコリント 3：3—

あなたがたが、私たちの奉仕の結果としてのキリストの手紙であることは、明らかです。それは、墨によってではなく生ける神の御霊によって、石の板にではなく人の心の板に書き記されたものです。

これらの聖句は、私たちの人生が人々への公開書簡としてどう生きるかを示します。このフレーズを耳にしたとき、そう語りかけられています。聞いてください。たとえ自分の人生を公開書簡として読まれたくなくとも、どうなりますか？ とにかく読まれます。教会よ、聞いていますか？ それは、主に引き寄せられることによってもたらされる召しの一部です。私たちはそのような奉仕のために召されていて、日々の生活の中でそれを実践すべきです。だから、主との歩みは非常に重要なのです。繰り返します。私たちは周囲のすべての人々に読まれる生きた手紙です。私たちの開かれた心にある言葉が、神の愛を綴るものでなかったとしたら非常に恥ずべきです。それって茶番だと思いませんか？ 彼らが目にするのは、恨み、憎しみ、ねたみだけ。すべて神の愛に反するもの。しかし、なぜか旗を掲げて、クリスチャンだと言う。たとえ神が知られているとしても、私たちは神が示されるようにする責任があります。これは、イエスが私たちのためにしてくださったことに対する、私たちの当然の奉仕です。これが愛の実証ですよ。神の愛を語るのではなく、神の愛を実践しなければならない。皆さん聞いていますか？ 口先だけ、愛を語って、憎しみを実践している。繰り返します。これは、御霊において歩む時の、私たちの霊的な歩みの一部です。実際、私たちの霊的歩みには、以下3つの主要な要素があります。それらはすべて「エペソ人への手紙5章」に記されています。これが、私たちが御霊において歩む方法です。この最初のもは、1節と2節にあります。正に今、私たちが話していることです。御言葉を読みます。

—エペソ 5:1—

ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。

—エペソ 5:2—

また、___のうちに歩みなさい。・・・

「愛のうちに」

・・・キリストも私たちを愛して、私たちのために、ご自分を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました。

「レビ記」のミニシリーズをご覧になった方、あるいは聖書に出てくる全焼の捧げ物についてご存じの方には、深い意味があるはず。なぜなら、愛に歩むこと、もっとより良く言えば、キリストの愛に歩むことは無私の愛だから。これは、世や他の誰にも期待しない愛です。これは神の御思いに沿う神の愛です。全て神の御思いのため。それは私たちの感情を超えます。すべては御父の御心が故になされる。私たち自身からではなく。それは犠牲的な愛で、私たちは自分の体を祭壇、そう、神の祭壇に捧げ、神に焼き尽くされ、神への甘い香りとなるように示すのです。それがキリストに倣うということです。私たちがすべきことは、主が私たちを用いてくださるため、特に救われていない人々のために私たちを用いてくださるため、喜んで自分を犠牲にすることです。このことを考えてほしいのですが、もし私たちが神に用いられていないなら、そうなら、私たちは愛の問題を抱えている可能性が高いです。聞いてます？ もし私たちが神に用いられていないのなら、大抵の場合、私たちには愛の問題があります。神に用いられることを期待しながら、自己愛の中を歩むことはできないからです。だから、私たちは日々、自分の心を吟味しなければなりません。では、2つ目の要素は、8節から11節です。御言葉を読みます。

—エペソ 5:8—

あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあって光となりました。光の子どもとして歩みなさい。

—エペソ 5:9—

あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです。

—エペソ 5:10—

何が主に喜ばれることなのかを吟味しなさい。

—エペソ 5:11—

実を結ばない暗闇のわざに加わらず、むしろ、それを明るみに出さない。

ここでは、光の子として歩むことを命じられています。またここで留意すべきなのは、私たちはかつて“闇の中”にいたとはここで語っていません。この聖句が語るのは、私たち自身がかつて“闇”だった。これが事実だと知るべきです。特に、私たちが真の生ける神の輝きを見始めるにつれて。私たちの本当の闇がわかるでしょう。神は光です。神には全く闇がありません。(1ヨハネ 1:5)

そして、御霊のうちに歩むとき、私たちは常に成長していかなければなりません。私たちは常に主に向かって歩まなければなりません。聞こえましたか？ 主に向かって歩む。聖書は明確です。私たちは、善と義、イエスの義を求めて、そして御言葉の真理を求めて前進せねばなりません。先ほど話した様に、神の真理はいつも簡単ではありません。違います。でもそれが真理です。ここで学び、神の真理の御言葉を受け入れるとき、私たちの人生は変容します。そしてそれは、私たちがあの完璧な日まで、ますます輝きを増すことで明らかになります。そして、10節を読み飛ばさないようにしましょう。「何が主に喜ばれることなのかを吟味しなさい。」それが分かりますか？「ローマ人への手紙12章2節」にも同じフレーズが記されているからです。それは、私たちの思いを新たにすることと繋がっています。どうやってするのですか？ それについて、話しましたね。含まれるのは、すべての祈りとともに神の御言葉を注意深く学ぶこと。そして、主が照らしてくださるものを見て、それらに基づいて行動し、それを繰り返す。私たちの人生の経験は、神が私たちをどのように用いられるかに大きな役割を果たします。聞いてますか？ 私たちは、神のために何もしないことで、神に用いられる経験を得ることはできません。分かりますか？ あなたは、X、Y、Zをすることで、世のあらゆる経験を積むことができますが、それが神のものでないなら、神はそれをどうされたいですか？ 再度、私たちは光の子として歩むべきです。考えてみてください。子供たちは活発です。私たちの霊は休眠状態ではなく、活動的であるべきなのです。光の子として歩む私たちは、闇の実を結ばない業を暴く使命も負っています。そして、聖書のほとんどの箇所と同様、これはそれ自体が学びです。というのは、私たちはしばしば、聖句を文脈から取り出し、世の中を適切に判断できないからです。時間の都合上、これだけ言っておきます。私たちは、世の救われていない人たちを手の届かない存在であるかのように判断してはなりません。皆さん、分かりましたか？ 私たちは、世の救われていない人たちを、手を差し伸べられない存在で、必要ないと判断してはなりません。分かりますか？ それは私たちが世に対して持つてはいけない判断です。大丈夫ですか？ しかし、私たちは、神の御言葉に従って義の裁きを判断するように召されています。そして、どこにしようと、すべての闇を暴くべきです。だから、聖句を使ってこう言うのは止めてください。「そう、それは僕には関係のない世だね。」関係あります！！ 神があなたをそういう立場に置いたのなら、なぜそんなことを言うのですか？(ダメダメダメ) そんなことまで言及するのですか？ そういう時もあるし、見極めとあらゆる知恵が必要です。私たちは暗闇に直面して、それに立ち向かう必要がある。もしあなたがしなかったら、必ず問題が起こります。しなければならぬから。そして、御霊のうちに歩むための最後の重要な要素は、15節から17節です。御言葉を読みます。

一エペソ 5:15

ですから、自分がどのように歩んでいるか、あなたがたは細かく注意を払いなさい。知恵のない者としてではなく、知恵のある者として、

一エペソ 5:16

機会を十分に活かさない。悪い時代だからです。

一エペソ 5:17

ですから、愚かにならないで、主のみこころが何であるかを悟りなさい。

今、私たちは知恵をもって慎重に歩めと言われていています。知恵は聖霊の賜物です。私にとって、それはとても見過ごされているもので、また主を十分求めていないことでもあります。人々は知恵を求めて祈りません。人々は他のすべての賜物のために祈ります。知恵以外のすべてに。そして、聖書で、知恵は、愛と同じくらい多く語られているものです。知恵という言葉だけでなく、それがどのように語られ、主にとってどれほど重要なことなのか。というのも、絶対的な知恵、私たちにある知識や理解のすべては、それを応用する

知恵がなければ何の意味もないからです。そして、15 節の“細かく注意を払って”という言葉について考えましょう。知恵のある人として慎重に、あるいは正確に歩むという意味です。つまり、私たちは常に自分の行く先に気を配り、知恵を尽くしてつまづかないようにしなければならないのです。私たちは左を見ず、右を見ず、まっすぐにイエスに焦点を合わせ続ける。これが私たちがすべきことです。あらゆる知恵の中で計算された歩み。私たちが主に集中し続ける方法は、時間を取り戻し、時間を無駄にしないことです。つまり、私たちは時間を最大限に活用し、主が与えてくださるあらゆる機会を最大限に生かすこと。しかし、主が御心に適う機会を与えてくださるよう、私たちは進んで自分自身を用意しておかねばなりません。何度も何度も言いますが、多くの場合、私たちはあちこちを駆け回り、自分のやりたいことをすべてしているから。そして、私たちはそれにミニストリーを付け加え、神のことだと言う。つまり、私も例を挙げることができます。そう、私は副牧師でしょ？ じゃあ、学校に行つてこう言えばいい。「おい、説教させて。そう説教するよ。ねえ、説教してほしい？」でしょ？ それは神のものではありません。違います。そういう仕組みではありません。私たちはただ忙しくなって、自分の意志を貫くことで精一杯になる。今ある時間を取り戻す代わりに、時間を無駄にしてしまう。すると、それらが私たちの主人になる。時間を浪費するのが私たちの主人。最後に、この件に関連するこの名言に耳を傾けてください。

—引用—

「時間を見て、それをコントロールできるよう自分のものにする。ビジネスマンとしてチャンスに目を配り、最高の商品を的確に選び出すかのように。時間に奉仕するのではなく、命令されたことに奉仕する。そうすることで、主は御心に基づいて承認されたものをあなたに与えてくださる。」

どう混ぜ合わさっているか分かりますか？ ビジネスマンになったつもりで、チャンスに目を配る。しかし、それは神の時間です。主が設定されれば、それは紛れもないものになる。多くの場合、私たちはどこにでも行きたがり、神が私たちに与えてくださった機会を逃してしまふ。そして、ただ時間を浪費している人々たちには、もう一度このことを知っておいてほしい。再度、邪悪な時代です。私たちはすでに借りた時間の上にあります。言うまでもなく、悪は常に怠惰な魂を訪問する時間を持っています。でしょ？ ですから、私たちは皆、御父の仕事に専念し、常に神を示すようにするのがよいでしょう。そして、私たちの周りの人々が神を本当に知るようになることを願う。しかし、神が御自身を知らされているにも拘らず、神を知ろうとしないあなたは、悪魔と一緒にいることを選んでいます。それが選択です。悪魔は、火の池に投げ込まれますよ。それがあなたの選んだ選択です。でも、そうする必要はありません。宗教のせいにしてたり、知人や自分自身に起きたことを非難したりすることはできません。こうなってくると、私たちは皆、神がご自身が知られているという現実と直面しなければならぬからです。主は聖なる方で、私たちは罪びとです。罪が問題で、イエスが答えです。だから私たちは皆、イエスが必要なのです。あなたの魂の救いのために、イエスが必要です。イエスは、神に知られる唯一の道です。今日、イエスを選び、救われることをお勧めします。「イエス・キリストの福音」です。「イエス・キリストの福音」とは、聖書に書いてある通り、キリストが私たちの罪のために死んでくださったこと、イエスは葬られ、3 日目によみがえられたこと。(I コリント 15:1-4 参照)

救われるのは、ABC くらいシンプルです。

A : まず、自分が神に背いた罪びとで、救い主イエス・キリストが必要だと、Acknowledge/認識する。

救える人はたった一人、イエスだけです。

—ローマ人への手紙 3 章 10 節—

義人(正しい者)はいない。一人もいない

今日、先ほどそれを読みましたね。

—ローマ人への手紙 3 章 23 節—

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

誰ひとりとして、自分の功績では、神の国に受け入れられることはありません。その仲介者は、キリストで

なければなりません。

ーローマ人への手紙6章23節ー

罪の報酬は死です。しかし神の賜物(贈り物)は私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。

それがAです。

Bは、B: Believe/信じる。Cは、C: Confess/(口で)告白する。両方、「ローマ人への手紙10章9節10節、神の御言葉が語ります。

ーローマ人への手紙10章9節ー

「あなたの口でイエスは主と告白しあなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。」

ーローマ人への手紙10章10節ー

人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

これは救われるための最もシンプルな方法です。そうすれば、あなたは主の御言葉の真理に安息することができます。あとは主がしてください。主は、あなたがたのうちに働いてくださいます。主は私たちが愛しておられるので、私たちが和解することを望んでおられるからです。神の御言葉は具体的にこう語ります。「第二ペテロの手紙3章9節」です。

ーIIペテロ3:9ー

主は、ある人たちが遅れていると誤解しているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

ですから、あなたがイエスをあなたの救い主とし、神を真に知り、ついに内なる平安を得ることを祈ります。皆さん、ご起立ください。カポノ、上がってきてください。一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、あなたの御言葉に感謝します。あなたの御言葉は厳しいです。でも、あなたの御言葉は真実です。私たちが関心を持つのは、真実だけであるべきです。そのおかげで、主よ、私たちはあなたがなさった御業によって救われるのです。ですから、主よ、祈ります。私たちがあなたの御言葉を聞き、学び続けることができ、あなたが、ここで起こっているすべてのことから私たちを贖ってくださると知りながら、信仰に耳を傾け、行動しますように。近いうちにあなたは、私たちのために戻って来られます。私たちは待ちきれません。その時まで、どうか、他の人々があなたの真理の御言葉を聞き、学び、あなたという真の生ける神、キリスト・イエスの力強い御名を知るようになるため、私たちにあなたの真理の御言葉を語る大胆さを与えて下さい。イエス・キリストの力強い御名において祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7